

# 徳島大学生の文章執筆における困難についての検討

飯尾健（徳島大学）・上月翔太（愛媛大学）・蝶慎一（香川大学）

## 背景と目的

大学における文章執筆の現状

大学入学までの学生の文章執筆に関する躓き・困難

効果はあるのか?

学生の文章執筆能力に課題 (cf. 小山, 2016)

多様な文章執筆教育の実施  
(上月, 2025)

学生が初等・中等教育を含むこれまでの文章執筆の際に経験した困難を明らかにする

今後の大学における文章執筆教育の設計に向けた示唆を与える

## 方法

徳島大学の学生8名に調査を実施（第一筆者授業内）

オンライン付せんツール"miro"を利用し、自由記述形式で

「これまで（小学校～大学）レポートや文章を書くとき、何が大変だったか/きつかったか/困ったか/嫌だったか」を書き出してもらう

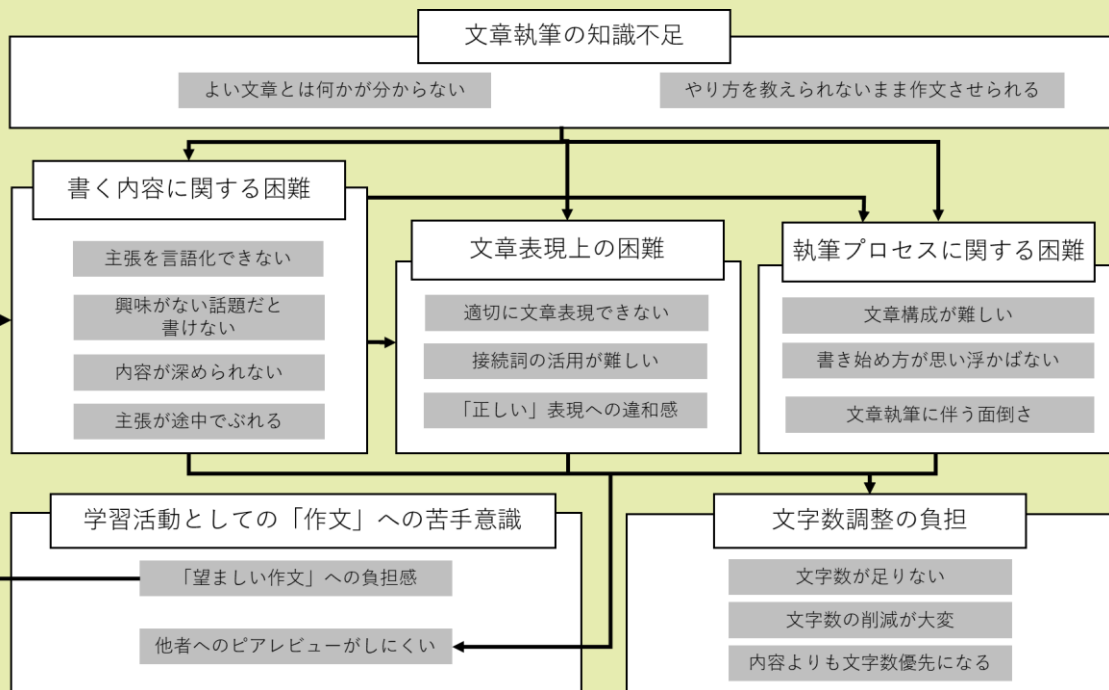
KJ法をもとに付せん（53枚）を筆者がまとめカテゴリー化・図式化

## 結果と考察

文章の書き方を  
教えられていない

教えられていないから  
書けない

意識の中心が  
「文字数制限」  
「教員の評価」に



## 今後への示唆と課題

「よい文章」「書き方」は自分の属する言説共同体によって異なる (Beaufort, 2007)

言説共同体におけるコミュニケーションの仕方を教員・学生が相互に理解し「よい文章」の基準を明確にする  
「この言説共同体において何を期待して文章は読まれるのか?」「そのために望ましい文章とは何か?」

## 参考文献

- Beaufort, A. (2007). *College Writing and Beyond: A New Framework for University Writing Instruction*. University Press of Colorado.
- 上月翔太・蝶慎一・飯尾健 (2025) 「ライティング能力育成のための授業科目の現状と課題」 SPODフォーラム2025ポスターセッション.
- 小山治 (2016) 「学生のレポートを書く力の熟達度—社会科学分野の大学4年生に対する聞きとり調査—」 『大学教育実践ジャーナル』 14, 9-16.